

ちぢみホウレンソウ ゆきみな 『雪美菜』の 生産に取り組む

JA千葉みらい指導経済部
組織指導課 石井 信宏

消費地の中心に位置するJA

千葉市と習志野市にまたがるJA千葉みらいは、東京近郊であることに加え、管内の人口が100万人を超えており、「農業を通じて新しい食文化を育てる」というコンセプトを掲げる都市型JAです。管内には習志野、幕張といった海沿いの温暖な地域から、土気、誉田といった内陸性の地域があり、主要品目であるニンジン、ホウレンソウ、小松菜、ネギ等をはじめとして、多くの品目を生産しています。京浜市場、地元市場への出荷のほか、消費地という立地条件を生かして、県内最大規模のJA農産物直売所での販売やスー

パー・量販店のインショップでの販売もおこなっています。

きっかけは売れるものづくり

JA千葉みらいでは、「農家所得の向上」を基本に“売れるもの、付加価値あるものづくり”を地域農業の振興策としており、その一つとして、従来のホウレンソウと栽培方法・食味で一線を画す「ちぢみホウレンソウ」に着目しました。また、管内の葉物の産地振興とも併せて平成16年度から栽培を開始しました。

品種として『雪美菜』を選定

ちぢみホウレンソウの発祥が寒冷地であったため、栽培初年度は寒冷地で育成された品種を用いました。一方で、寒冷地で育成された品種がはたして千葉の気候下で最適であるのか、という疑問もあり、品種選定をしていたところ、同じ千葉市内の雪印種苗千葉研究農場で育成された『雪美菜』があることを知りました。べと病抵抗性レース1～7までであること、全農千葉県本部営農技術センターの協力のもと実施した品種比較試験において生育・収量性・糖度等の結果が良好だったことか



ら、平成17年度より栽培品種を『雪美菜』に統一しました。

特色ある産地を目指して

平成18年度の結果

18年度は『雪美菜』を播種した9月下旬以降、低気圧の通過による台風並みの豪雨・大風が数回あり、また例年のない暖冬という厳しい条件下での栽培になりました。一部では大雨による影響で発芽率低下・発芽後生育不良の圃場もあり、また暖冬による気温高で生育が前進した経過もありましたが、全体的には『雪美菜』のゆっくりじっくり育つという特性と収量性、糖度面で2月末まで出荷することができました。

18年度の結果をふまえて今後は、播種前の圃場づくりや播種方法を再度検討し、栽培する全生産者が、厳しい気象条件下でも一定以上の品質と単収を確保できる栽培技術の平準化を図ることが課題です。さらに、ちぢみホウレンソウの生産が全国的に広がる中で当産地の特色を出せるよう「ちばエコ農産物」「もっと安心農産物」の認証にも取り組んでいきたいと考えています。

